所沢市立所沢中学校 学校だより

所中だより

令和８年７月６日　第４号

学校教育目標
「自立・共生・貢献」
・求めて学ぶ（自主性）
・共に生きる（人間性）
・力を尽くす（社会性）
校長

【特色ある学校づくり宣言】　本校は、さわやかな挨拶・心に響く合唱・地域に根ざす学校を目指します。

〒359-1118　所沢市けやき台２－４４－１　　℡　04－2922－4138（FAX:4139）
http://www.tokorozawa-stm.ed.jp/tokorozawa-jh/k　E-mail tokorozawa-j@tokorozawa-stm.ed.jp

価値ある修学旅行

６月３０日から２泊３日で修学旅行に行ってきました。３年生になって、この日のために時間をかけて準備してきました。出発前日に飛び込んだ近鉄奈良線の脱線事故のニュースは衝撃的でした。電車、集合場所、見学場所や時間、これまで綿密に考えられた計画を変更しなければなりません。前日指導で、秋田先生から京都駅からの行動を変更することが伝えられましたが、静かに落ち着いてしおりに書き込んでいる姿が立派でした。１日目の奈良の行動は、何度も変更されました。電車もダイヤが乱れていて、しおりに書き込んだ時間と異なることもありましたが、近くにいる大人に尋ねたり、自分たちで考えて行動し遅れることなく無事にホテルに到着しました。学年として、クラスとして、班として、それぞれの場所でリーダーとメンバーが協力した証だと考えます。修学旅行の３日間を振り返って３年生の行動を一言で表すならば「マナーが良かった」と言えます。駅や見学先の混雑しているところでは、一般の方の迷惑にならないように気を遣っていました。外国の方から「サンキュー」「ソーリー」と言われているシーンが何度もありました。ホテルの方や写真屋さんからは、あいさつや返事がいいとほめていただきました。さらに言えば、いつもしおりを手にしていて、次の行動や時間を意識していました。食事、入浴、係会議など、全て時間前に集まっていました。学校生活で身についていることが、学校外でもしっかりできる。学校外だからこそさらに意識している行動に、個人としての成長、集団としてまとまりを感じました。

さて、修学旅行の費用は、お小遣いやお土産代も含めると約７万５千円になります。プレステ5やスイッチ2だと本体とソフト、野球だと最高級のオーダーグラブが買えます。高校生のアルバイトに換算すると時給1000円で75時間（3時間のアルバイトを25日）になります。価値観は人それぞれなので簡単に比較はできませんが、修学旅行には、どれくらいの価値があるのでしょう。この価値を高める要素として、今回の修学旅行のスローガンにある『Make memorise ～3本の矢より折れない思い出～』がカギとなります。「三本の矢」とは協力や団結、強い結束力を表す言葉で戦国時代の武将毛利元就の「正しくあれ、支え合え」という教えです。

ここで言いたいのは自治の力です。自分たちのことは自分たちで決めて実行し、その結果に責任を持つ。今回の修学旅行では、自分たちでルールやマナーを考え行動しました。その根底にある心は・・・

百花繚乱　～全員主役の笑顔輝く学年へ～

「百花繚乱」これは、３年生の学年スローガンです。その意味は「様々な花が一時期に咲き乱れる様子」を表す言葉で、美しく活気にあふれている状態を指します。今回の修学旅行では、結果的には、スマホやお菓子などいくつかのルール違反が報告されました。学年全員のことを考えてルールを守った人、自分の気持ちを優先してしまってルールを守れなかった人、それぞれ感じていることがあると思います。学年スローガンの達成に向けて取り組む時間は、まだまだあります。これからの成長で、今回の修学旅行の価値は大きく変わってきます。

２０２６　FIFA サッカーワールドカップ　サムライブルー　最高の仲間

史上初めて２大会連続、日本を率いてワールドカップに臨んだ森保監督が率いるチームの目標は「優勝」。大きな目標を掲げて臨むチームは「誰がでても勝つ。誰と組んでも機能する」として作り上げてきました。

「共闘」という言葉を繰り返し、組織力とは内部の結束力だけではなく、どれだけ多くの人を巻き込み、応援者を増やせるかによってその大きさは決まると言い切る。日本人代表監督として初めて国際Ａマッチ 100 試合以上を指揮して、勝率は過去最高の約７割。日本人の持つ「俊敏性」「技術力」「連携・連動」「察する能力」を武器として、文化や習慣も含めて「日本人らしく」世界に挑むと表現し、世界を魅了しました。

その森保監督が理想とする組織像は『ONE PIECE』のチームだという話があります。ONE PIECE の人気の秘訣は何と言っても仲間との深い絆。ルフィを含む ９ 人には、それぞれの夢があります。みな同じ夢を持っているわけではありません。ですが、ルフィの「海賊王になる」という夢を共有していれば、いずれ自分たちの夢が叶うことを信じて行動を共にします。一人ひとりの異なる夢は、全員が揃ってこそ実現できるということを信じています。堂安選手がスウェーデン戦前のインタビューで「僕が得点するシーンも見せたいですが、このチームではやることがあるので、それをしっかりやります」「チームのためにやっているという充実感があります」との言葉に背番号１０の責任感と最高の組織力を感じました。今大会から採用されている ３ 分間のハイドレーションタイムにも日本人らしさが出ていました。ベンチメンバーが若手ベテラン関係なくサポートに回り、選手を鼓舞しています。選手とスタッフがきれいな円を作り、しっかりコミュニケーションを取っています。言葉を発しているのは監督ではありません。これは、他の出場国とは全く違う光景。ベンチ最前列で大きな声を出す長友選手。試合後の円陣の輪には、遠藤選手のユニフォームがあり、吉田選手や南野選手がスパイクを磨いていることも報道されました。仲間の存在は、生きる上で欠かせないもの。仲間がいるからこそ、苦しいことや辛いことでも頑張ることが出来る。仲間とは一人では到底叶えられないような夢を共有する人たち。しかし、本当の仲間を得るということは、メリットだけでなくデメリットもあると言われます。「仲間に合わせなければならない」「誰かと仲良くなれば、誰かを失ってしまうかもしれない」と考えてしまうこともあるでしょう。

ブラジル敗戦後、森保監督は「めちゃくちゃ悔しい」とコメントしました。日本のワールドカップの歴史の中では、その実力差に悔しささえも感じることが出来なかった時代があります。敗戦から一夜明けて、堂安選手は「力の差、力負け」と点差からは見えない大きな力の差と今後の決意をコメントしました。森保監督は今大会で得たものとして「世界で戦う手ごたえ。この成長をしっかり続けていれば、世界一を取れる日が来る」と強調しました。また、技術や組織力以外に「予定変更や想定外の状況にストレスを感じないタフさ」に選手の大きな成長があるとも話していました。成長する仲間と一緒にいたいのなら、自分も成長しなければなりません。成長し続けなければ仲間と一緒にいられなくなってしまう可能性もあります。バランスのいい仲間関係は、一人ひとりの能力の足し算以上の力を発揮します。一人ひとりの合計よりも総和が大きくなる。一人ひとりの長所（個性）を生かし、お互いに協力し合う関係が築ければチーム力は加速度的にパワーアップします。正に『百花繚乱』の景色となることでしょう。

7･8･9月の主な行事予定

1　（水）3年修学旅行　2年普通救命講習	15　（水）5時間授業
2　（木）3年修学旅行　2年普通救命講習	16　（木）5時間授業　給食最終日　大掃除
7　（火）全校朝会　5時間授業	17　（金）終業式
8　（水）生徒総会	20　（月）海の日
9　（木）専門委員会	21　（火）3者相談　～２７日（月）まで　支部懇談会15:00
10　（金）第2回生活アンケート　安全点検	***8/11(火)～8/16(日)の間、学校の電話はつながりません。***
14　（火）生徒会朝会　5時間授業	8/31　（月）始業式　生活アンケート
15　（水）5時間授業	9/1　（火）短縮5時間　給食開始　二者相談